

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 7 月 23 日現在

機関番号：32639

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23300090

研究課題名(和文) 学校図書館におけるメディア活用の多様性が学習活動に及ぼす影響に関する研究

研究課題名(英文) Impact of variety of usage of school library media on students' achievements

研究代表者

河西 由美子(Kasai, Yumiko)

玉川大学・通信教育部教育学部・准教授

研究者番号：10365869

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,300,000円、(間接経費) 2,190,000円

研究成果の概要(和文)：学校図書館における調査では、調査対象校1校(1学級)の学校図書館を活用した学習活動について、質問紙調査・参与観察を通じて、分析のためのデータを収集し、最終年度には、科目担当教諭と司書教諭に対するインタビュー調査を実施した。その結果、学校図書館メディアの活用のプロセスにおいて、準備段階の情報収集では、生徒の読解力の差が、その後の学習課題の取り組みに大きく影響していることが示唆された。

幼稚園・小学校の接続期に関する調査については、AR技術を採用した教材の活用が、年長児にとって学校図書館メディアセンターに対する興味の契機となったこと、メディア施設の初期段階の学習として有効であったことが示された。

研究成果の概要(英文)：Firstly, in the research on school library media, a research by questionnaires to students, observation of classes and interviews to teachers and a teacher librarian were executed. As a result, it was hinted that reading literacy of students on the preparatory information seeking stage influenced the following learning activities and their achievements.

Secondly, from the research on the final year of kindergarten kids, it is found that Augmented Reality to be effective to intrigue the younger learners' interests on school library media center in the elementary school.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：情報学、図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：情報メディア 学校図書館メディアセンター 学校図書館 メディア 学習環境 幼児教育 メディア
リテラシー AR

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の学校図書館を、教育課程への効果的な貢献という観点から見ると、専門的人員の養成・配置やカリキュラムとの連動性において、必ずしも実効性のある政策が取られてきたとは言えない。その背景には、研究代表者が先行研究において明らかにしたとおり、学校図書館研究自体が歴史研究や海外事例研究などに偏重し、直接政策提言に結びつくような実証研究が低調であったことが要因のひとつとして考えられる。

(2) 「情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育の再構築に関する総合的研究 (LIPER1) (2003 - 2005 年度基盤研究 A(1) 代表：上田修一) の学校図書館班による質問紙調査では、日本の学校図書館業務の配分が、図書資料の管理と提供など伝統的な役割や読書教育に偏っており、新しいメディアの活用や学校内での学習支援につながる協働作業など、欧米の学校図書館ガイドラインで促進されている今日的な業務への発展が乏しいことが確認された。さらに同調査回答者から抽出したフォーカスグループインタビューでは、学校内の業務分担に、司書教諭や学校司書といった学校図書館担当者が、情報教育や学校内の ICT 運用に自発的に関わることを阻害する要素があることも発言された。

(3) 学校図書館の図書整備については、文部科学省による図書整備費交付措置が取られているものの、図書以外のメディアの活用については、未着手のままで、先進校や私立学校と公立学校の格差は大きい。

(4) 国際的な用語としての「情報リテラシー」は、日本での狭義の「ICT リテラシー」とは異なり、図書館を基盤とした、伝統的な印刷メディアから電子メディアまでを横断的に取り扱う包括的な能力概念として認識され、ユネスコが世界的な基準を定めつつある。こうした国際的な流れに対して、図書資料に偏重した日本の学校図書館は対応することが困難な状況に置かれているといえる。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、多様なメディアが配置されている先進的な学校図書館の、授業での活用状況を調査することにより、多様な学習情報源が学校図書館に整備されることの教育的な意義を明らかにすることを目的としている。

(2) さらに本研究では、図書館との関わりを持ち始める幼児期から児童期への接続期を視野に入れ、メディア接触が低年齢化する中、発達段階に応じた適切で多様なメディア情報源との接触について影響と効果を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 図書から電子メディアまで各種形態の情報源が整備され、管理・提供する司書教諭や専門職員の存在する学校図書館で実施されている授業を観察・記録し、参与観察や授業研究のアプローチによって学校図書館メディアの活用が学習活動に与える影響を量的・質的に調査する。

(2) 学校図書館を活用した授業を担当している教員に対してインタビュー調査を行い、学校図書館で多様なメディアを活用した授業を実践することへの意識や評価について調査する。

(3) 幼児期から児童期への接続期 (幼稚園年長児から小学校 1 年生) において、図書館でのメディア体験の実態調査と、活用プロジェクトを企画・実施し、その効果測定を行う。

4. 研究成果

(1) 学校図書館における学習を、先行的な情報リテラシー教育の要素が埋め込まれた新たな探究学習として捉えるアプローチ “guided inquiry” (導かれた探究) が、本研究と時を同じくして北米で展開されていることがわかり、本研究の対象校である玉川学園教職員チームが、夏期研究会の一員として米国ニュージャージー州立ラトガース大学に招聘された。玉川学園 9 年生 (中学 3 年生) 必修科目である「学びの技」における情報リテラシー教育要素を、理科の紫外線の学習に埋め込んだ学習プランが、最優秀案として評価され、“guided inquiry” (導かれた探究) アプローチの本研究への適用が有効であると確認できた。この経験により以後の研究計画に変更が生じ、平成 24 年度に予定していた授業内調査を最終年度である平成 25 年度に持ち越すこととなった。ただし、このときの実績は、平成 25 年 8 月にインドネシア・バリで開催された国際学校図書館協会 (IASL=International Association of School Librarianship) にて 3 件の国際発表として結実した。

(2) 前述の “guided inquiry” (導かれた探究) モデルに存在する 2 つの情報収集プロセスに特化して、中学生の学校図書館における情報メディアの活用状況の参与観察調査と生徒へのインタビュー調査を行った。“guided inquiry” (導かれた探究) モデルでは、“explore” (探検する) と “gather” (収集する) の 2 つの情報収集のステージがあるが、研究課題を選択する際の予備的調査段階である “explore” (探検する) の段階で、十分に資料を読解できている生徒は少数に留まり、基本的な読解力の差がその後の学習に影響を与えていることが示唆された。

(3) 中学3年生の「学びの技」受講生徒全員の成績結果が出た直後に、研究対象クラスの教員と司書教諭および科目担当教員にインタビューを行った。探究型の能力育成を意図した授業全般において意欲や能力を発揮できない一部の生徒についての指導上の課題が残ったという発言があった。

(4) 研究計画の変更により全体の計画が半年から1年遅れる結果となり、学校現場における参与観察およびインタビュー調査が最終年度末まで実施されたため、各調査間の相関関係や、各調査の統合分析については研究期間中には完了できなかった。

(5) 「幼稚園から小学校の接続期における図書館のメディア活用体験研究」の一環として、本に興味を持ち始める接続期前期(幼稚園園長児)におけるメディア環境の実態を把握した。保護者にアンケートを実施し、幼稚園児が実際に関わっているメディアに関して、接触時間・態度・意識を調査した。幼稚園児がスマートフォンやタブレット端末に早期かつ日常的に接触している実態が明らかになった。

(6) 前述の(5)の結果を踏まえ、玉川学園幼稚部の年長児を対象に、学校図書館メディアセンターであるMMRC(マルチメディアリソースセンター)におけるメディア活動を推進するプログラム「ゲンボウくんをさがそう! MMRCであそんでまなぼう!」を企画・実践した。平成25年2月、玉川学園幼稚部の教諭・MMRCの図書館司書スタッフ・本研究者らによるチームを構成し、協働プロジェクトとして遂行した。年長児が、知的好奇心を持ち、自ら探究活動を行えるよう、MMRC内に隠されたAR(拡張現実)のゲンボウくん(玉川学園オリジナルキャラクター)のアイコンを探し、タブレットPC(iPad)で探索マップを作成する流れを設定した。

(7) 前述の(6)の実践記録データをテープ起こしし、質的分析を行った。年長児の発話と行動から、AR教材使用が学校図書館に対する興味の契機になったことがわかった。本の分類法の説明を聞く場面では、「背の順」「あいうえお順」に分類されていると積極的に推測し、内容を示す番号で分類されているのを知ると「(本を)探すの楽しそう」と本への関心を抱き始めていた。本を借りるマナークイズを実施したカウンターと様々な本があるブックエリアに再度訪問希望が多く、その理由が「面白くて難しい」「ちょっと難しかったら好き」「番号が見つかって嬉しかったら」と、単純な楽しさよりも思考する点に魅かれていることもわかった。

このように、接続期の子ども達にとって学習情報メディアセンターとしての学校図書館を遊びながら学べる初期段階の学習とし

て、有効であったと考える。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計12件)
河西 由美子、デジタルメディア時代の学校図書館 第4回 図書館と情報リテラシー(2)、図書館教育ニュース、査読無し、1331、2014、p.2

河西 由美子、デジタルメディア時代の学校図書館 第3回 図書館と情報リテラシー(1)、図書館教育ニュース、査読無し、1328、2014、p.2

駒谷 真美、幼稚園児のメディア活用と学校図書館メディアに関する保護者の期待に関する研究、紀要「学苑」(昭和女子大学近代文化研究所)、査読有、868、2014、pp.47-58

河西 由美子、デジタルメディア時代の学校図書館 第2回 学校図書館の情報化、図書館教育ニュース、査読無し、1323、2013、p.2

河西 由美子、デジタルメディアと学校図書館、学習情報研究、査読無し、235、2013、pp.2-3

河西 由美子、電子書籍の図書館への導入 - 日本の公共図書館および米国学校図書館の動向、学習情報研究、査読無し、235、2013、pp.20-23

伊藤 史織、学びを活性化する学校図書館メディアの活用、学習情報研究、査読無し、235、2013、pp.14-19

河西 由美子、デジタルメディア時代の学校図書館 第1回 図書館教育ニュース、査読無し、1320、2013、p.2

KASAI, Yumiko, 他3名、Core Interests of School Library Practitioner in Asia and Pacific Region. Proceedings of 2nd Annual International Conference Incorporating The 17th International Forum On Research In School Librarianship, 査読有、2013、pp.94-108(学会発表と重複)

河西 由美子、米国における探究学習の動向 - ニュージャージー州ラトガース大学における夏期研修報告、学習情報研究、査読無し、228、2012、pp.54-57

中村 純、伊藤 史織、登本 洋子、'Guided Inquiry for Student Learning' にチームで参加して、学習情報研究、査読無

し、228、2012、pp.58-60

堀田 龍也、図書館教育の取り組みから情報教育が学ぶべきこと、学習情報研究、査読無し、228、2012、p.61

〔学会発表〕(計 3 件)

KASAI, Yumiko, 他 3 名、Core Interests of School Library Practitioner in Asia and Pacific Region. Proceedings of 2nd Annual International Conference Incorporating The 17th International Forum On Research In School Librarianship, 査読有、2013 年 8 月 26 日～同 30 日 バリ、インドネシア

NOBORIMOTO, Yoko, KASAI, Yumiko, Waza for Learning: Practice of Guided Inquiry Learning for a Student, Proceedings of 2nd Annual International Conference Incorporating The 17th International Forum On Research In School Librarianship, 査読有、2013 年 8 月 26 日～同 30 日 バリ、インドネシア

KUHLTHAU, Carol, KASAI, Yumiko, Designing Guided Inquiry for Asian Context: “Waza for Learning” An example in a Japanese K-12 School, Proceedings of 2nd Annual International Conference Incorporating The 17th International Forum On Research In School Librarianship, 査読有、2013 年 8 月 26 日～同 30 日 バリ、インドネシア

〔図書〕(計 4 件)

河西 由美子(編集・共著)、学びの場としての学校図書館、玉川大学出版部、発行確定 2014、200

河西 由美子(共著 他 8 名)、図書館情報学基礎 シリーズ図書館情報学、東京大学出版会、2013、280

河西 由美子、堀田 龍也(監修)、CD 教材まかせて学校図書館 中学校第 2 巻、2013

河西 由美子、堀田 龍也(監修)、CD 教材まかせて学校図書館 中学校第 1 巻、2012

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等 準備中(平成 26 年度中に公表予定)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河西 由美子(KASAI, Yumiko)
玉川大学・通信教育部教育学部・准教授
研究者番号： 10365869

(2) 研究分担者

駒谷 真美(KOMAYA, Mami)
昭和女子大学・人間社会学部・准教授
研究者番号： 20413122

(3) 連携研究者

堀田 龍也(HORITA, Tatsuya)
玉川大学・教育学研究科・教授
研究者番号： 50247508

(4) 研究協力者

伊藤 史織(ITO, Shiori)
玉川学園・司書教諭
研究者番号： なし

中村 純(NAKAMURA, Jun)
玉川学園高学年・理科教諭
研究者番号： なし

登本 洋子(NOBORIMOTO, Yoko)
玉川学園高学年・情報科教諭
研究者番号： なし